ゆるっと さるいて 楽しみ 発見！

志々岐・小原さるきコース

2026.02.07

NPO やまがもてなしたい

鍋田方面の空からみた志々岐台地の様子

天文年間（1532-1555）、
金剛乗寺の宥明法印が
志々岐台地北斜面の一帯に
「釈尊涅槃像」を
見出したといわれます。
見立てられた涅槃像は
「首から肩まで約 80m、肩から踵まで約 400m
高さは菊池川の水面から約 80m。
月夜には下の淵に影が映え、全身が鮮やかに見えた」との
見立てをし、周辺を「涅槃瀬」と呼び、川沿いの
龍宮の森を蓮台に見立て尊崇したと云われています。
ここには古くから次の和歌が歌い継がれています。
『香に咲く　肥後の鍋田の涅槃岩　常に嵐に　波を仏法』

近隣には縄文時代から人々の生きた痕跡の残る歴史ある地
本日はゆっくりと皆さんと、さるいてまいりましょう

旧山鹿郡三十三観音霊場 三番札所 ”子安寺”

伝説の清水と安産信仰が息づく観音堂

志々岐地区を流れる岩原川。その川に架かる新子安橋を見下ろす丘の上に、静かにお堂が佇んでいます。現在は低木に囲まれていますが、北側には素晴らしい眺望が開け、訪れる人々の心を和ませます。

お堂の中には、本尊である「十一面観音立像」をはじめ、薬師如来など十二体もの仏像が安置されており、地域に根付く信仰の厚さを今に伝えています。

かつて、このお堂は現在地よりも上流にありましたが、昭和 40 年代の道路拡張工事に伴い、現在の場所へと移されました。

古文書『鹿郡旧語伝記』には、旧地について「ここに清水あり」と記されています。かつて国守が山鹿を通行する際、この湧水を茶の湯として愛用したこと、また「産に用い産安し」として、安産の御利益が言い伝えられていたことがわかります。

志々岐閻魔堂

閻魔堂（えんまどう）とは、冥界の主であり死者の罪を裁く閻魔大王を本尊として祀る仏堂です。

昭和９年刊行の「肥後國誌」によると、元々は金剛乗寺の末庵であり、横手山佛陀寺という古寺の址だそうです。

平安時代末期に広まった「十王信仰」に基づき、死後の審判への畏怖と救済を願う場として各地に建立されました。最大の特徴は、恐ろしい姿をした閻魔大王が、実は慈悲深い地蔵菩薩の化身（本地仏）であるとする「本地垂迹」の思想です。その厳しい裁きは、人々を迷いから救い、正しく導きたいという深い慈悲の裏返しであると信じられてきました。
また、「嘘をつくと舌を抜かれる」といった教訓を通じた道徳教育の場や、厄除け・病気平癒を願う身近な信仰対象として親しまれています。現在も先祖の冥福を祈ると同時に、自分自身の生き方を見つめ直す内省の場として、重要な役割を担っています。

⦿ 志々岐の六地蔵幢

志々岐舞鶴の四差路にて、元禄６年の銘がある庚申塔と向かい合う位置に建つ石塔。全高 253cm で完形を保つが、風化による摩滅が激しく文字の有無は判別できないため、建立年代は不明である。台石には無数の盃状穴が見られ、この石塔の大きな特徴となっている。

志々岐阿蘇神社

山鹿市志々岐地区に鎮座する「志々岐阿蘇神社」は、天文 12 年（1543 年）創建と伝わる古社ですが、他所では見られない数々の「不思議」が訪れる人々を惹きつけています。

参拝者をまず迎えるのは、城壁を思わせる立派な石垣です。その角をよく観察すると、神社建築としては珍しい「竜」の装飾が施されています。

また、参道階段の下には右側にだけ巨大な灯籠があり、対になるはずの左側の灯籠は、なぜか少し離れた道脇にぽつんと佇むという奇妙な配置になっています。

境内には、山鹿市内でも屈指の数を誇る 22 基もの「猿田彦大神」の石碑が並び、地域信仰の深さを物語ります。また、境内社である諏訪神社の拝殿前には、正徳 4 年（1714 年）の銘と背中の彫刻が特徴的な古い狛犬が残されてる。

さらに興味深いのが、記録と現地の差異にみる謎です。社名の表記は文献や鳥居によって「志士岐」「志々岐」「志志岐」と定まっていません。極めつけは八坂神社の奥にひっそりと祀られた「大国主大神」の石碑と、横倒しにされた「一宮」の扁額です。

これらは神社誌に記載がなく、その由来は謎に包まれています。

旧山鹿郡三十三観音霊場 四番札所 ”観福寺 ” の手前にあります。

下に、観音堂、その奥には手で掘られたであろうトンネルがあり、トンネル若しくは階段で上がると、上に小原権現社が鎮座します。
社内や、頬化分権などでは、詳しい由緒などが見つかれませんでしたが、お宮内の由緒が書かれた石碑には、「小原の地域が昔沼地で五穀の稔り薄く年々の飢饉と病広まり難渋せし時代美田を作りたいと萬民の幸福を願い伊勢の宮に祈願いたし豊受の神 外に八大龍神 土の神を安置するものです」とあります。３柱とも農耕の無事を祈るためなのでしょう。

又、権現社の左下の崖には石仏や石碑なども祀られています。
地域の方々が、大切に手入れされ守られており、この地の大切な信仰の場となっているのでしょうね。

旧山鹿郡三十三観音霊場 四番札所 ”観福寺”

小原権現の左下の道を進むと１００メートルほど先の右手に
観音堂があります。

観音堂は、一間 × 一間。本尊は、聖観音で高さは約５０センチの木彫座像。
本尊の千手観音と如意輪観音は、最近できた新観音堂に移されているそうです。
『鹿郡旧語伝記』には、
「赤尾山観福寺という、古寺の跡あり。本尊観世音辻堂に在す」とある。
小字名も、観福寺である。禅宗の古寺跡ともいわれています。
感福寺、閑福寺ともいうそうです。
中世の古寺の存在を裏付ける五輪塔が五基残っています。

小原地区の集落内には、様々な所に石仏様や小さな祠が点在してます。
ゆっくりと歩いて石仏様に会いに行くものいいですね。

小原若宮神社

神社誌によると、創建年は不明。
昔は、この地よりやや北東にある小字「龍宮」に鎮座されていたそうです。いつの頃かこの地に遷座され現在に至ります。祭神は「仁徳天皇」。境内には「菅原神社」と、飛地境内神社として「綿津見神社」があります。こちらのお宮の神門は素晴らしい装飾を見ることが出来ます。又、神門内の狛犬も純白の可愛らしい姿を拝見出来ます。神門の正面の飾りも見事ですので、実際に生でご覧ください。神門前の石灯篭の上に施された小さな狛犬の表情もいじらしさを感じます。

⦿ 小原の六地蔵幢

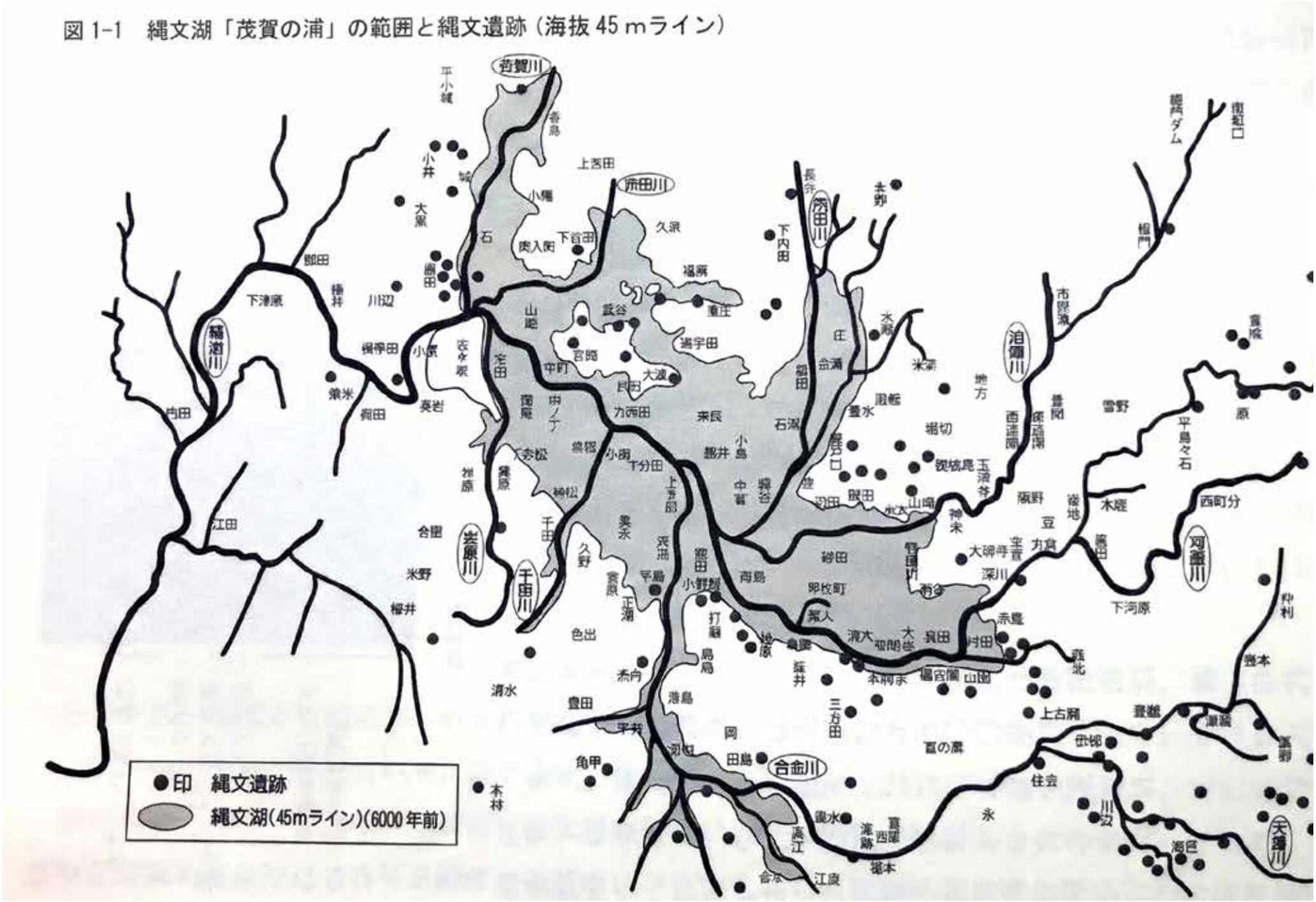
小原若宮神社の境内、消防庫屋の脇に建っています。龕部の痛みが酷く、尊容は確認できません。竿石の根部に僅かに銘が読めますが「寛政四年」建立の様です。全高 257cm.
中村、八之峯、野辺田の六地蔵と
似た形だそうです。

志々岐台地南端の崖面に掘られた横穴墓群。
これまでに大小 120 基余りの横穴が確認されており、一部の横穴では線刻や浮彫り彩色によって人物や弓矢、盾などが描かれている。108 号横穴入口上部の手足を広げた人物・靱・弓・ゴンドラ、109 号横穴外壁の盾などは必見。県指定史跡、1959（昭和 34）年指定。

⦿ 船頭さんの首

長岩横穴群の中間の大岩の近くにある。昔一帯が海であったころ、船が岩に当って沈んだので、船頭の霊を慰めるためこの石像を造立したと伝え、この附近を「船頭ヶ鼻」」という。この伝説は肥後国誌（明和 9 年 1772 年）の志々岐村および棒井村の項に「唐船巌」とあり、その末尾の「上古滄海ノ時唐船此巌ニテ砕ケタリ云」と記されていると考えられる。
石像は、後代に積み上げた切石台の上に首から上をおくが、忿怒相、左に束ねた総髪、右に立てた剣から不動明王であることがわかる。
凝灰岩を彫像、刻銘はなく造立期は不明。台上高七二。

図 1-1　縄文湖「茂賀の浦」の範囲と縄文遺跡（海抜 45 mライン）



中原 英 様 著書『 太古の湖「茂賀の浦」と「狗奴国」菊池 』より引用

◉ 茂賀の浦と菊鹿の盆地のお話 ◉

昔々、大昔のお話。

今の菊池にある隈府（わいふ）の村から、山鹿の米田（よねだ）の村にかけて、菊鹿盆地とも、あるいは菊池盆地、山鹿盆地とも呼ばれる、それはそれは広大な盆地が広がっておった。低いところでも十九メートル、高い段丘では六十メートルもあり、東は阿蘇から続く迫間の丘、西は関町、北は筑肥の山々、そして南は肥後の台地と、四方をぐるりと囲まれた天然の要害じゃった。

時を遡ることおよそ十二万年。阿蘇の山が火を噴き、流れ出た火砕流が川をせき止めたそうな。するとどうじゃ、そこには水面が七十メートルにも達するような、海のように巨大な湖が現れたという。

じゃが、この菊鹿の地は、大地が北と南に引き裂かれる「瀬戸内雲仙地溝帯」という裂け目の上にあった。そのために地面が沈み込み、せき止められてはまた沈むことを繰り返し、何度も湖ができたり消えたりしたそうじゃ。最後に現れた湖は、今から九万年ほど昔のものと言われておる。

時が流れ、縄文の世には水面が四十五メートルほどに、弥生の世には三十メートルほどに下がり、湖はだんだんと小さくなっていった。古き書物『肥後国誌』には、弥生のころ、この湖が「茂賀（もが）の浦」と呼ばれておったと記されておる。その言葉通り、太古の湖のふちにあたる場所からは、縄文や弥生の人々が暮らした遺跡が見つかっておるのじゃ。

やがて、「志々岐（ししぎ）」という狭い場所が破れ、湖の水がついに流れ出した。水が引いたあとの湖の底は、水利の良い、それはそれは肥沃な土地へと生まれ変わった。そこで稲作が盛んになり、古代の王国が生まれ、中世には菊池一族が名を馳せ、条里制が敷かれるほどに栄えたということじゃ。

めでたし、めでたし。

旧山鹿郡三十三観音霊場

「旧山鹿郡三十三観音霊場」は、現在の熊本県 山鹿市（旧・山鹿郡地域：旧山鹿市、旧鹿本町、旧菊鹿町）にある 三十三ヵ所の観音堂・札所 を巡る巡礼路です。地域をあげて観音信仰をすすめ、各所を「札所（ふだしょ）」として定め、巡礼者が観音菩薩にお参りしながら土地の文化・歴史・自然も味わえる構成になっています。三十三番札所が、菊鹿町の相良寺です。

日本で「三十三観音霊場」という巡礼形式が最初に体系化されたのは、西国三十三所観音巡礼（奈良～京都～滋賀～兵庫～和歌山）です。

江戸時代中期以降、庶民信仰が広がり、遠くまで旅するのが難しい人々のために、各地の寺社が協力して「地元版の三十三観音巡り」を設ける動きが起きます。

⊙ 現代における意義

① **地域文化遺産としての価値**

寺院が減少する中でも、札所堂や石仏は地域の信仰・歴史を語る貴重な文化遺産。

② **巡礼観光・地域再生の可能性**

「歩く」「祈る」「出会う」ことを通じて、地域の魅力を再発見する観光資源として再評価されています。

③ **精神的な継承**

現代の人々にとっても、静かな道を歩きながら観音に手を合わせる体験は、心の安らぎや原風景の記憶を呼び覚ます行為となっています。

1. 紫雲寺（しうんじ）山鹿市九日町 / 2. 川辺寺 - 山鹿市南島 / 3. 子安寺 - 山鹿市志々岐 / 4. 観福寺 - 山鹿市小原
5. 智徳寺 - 山鹿市鍋田 / 6. 宝性寺 - 山鹿市鍋田 / 7. 集林寺 - 山鹿市石 / 8. 東向寺 - 山鹿市城 / 9. 円通寺 - 山鹿市城
10. 千福寺 - 山鹿市城 / 11. 安養寺 - 山鹿市津留 / 12. 柳井寺（野辺田観音堂）- 山鹿市小坂 / 13. 法華寺 - 山鹿市寺島
14. 志徳寺 - 山鹿市寺島 / 15. 周法寺 - 山鹿市杉 / 16. 光明寺 - 山鹿市上吉田 / 17. 観念寺 - 山鹿市熊入
18. 長源寺 - 山鹿市山鹿 / 19. 雲閑寺 - 山鹿市中 / 20. 蓮生寺 - 山鹿市久原 / 21. 京通寺 - 山鹿市久原
22. 凡導寺 - 山鹿市蒲生 / 23. 岩隣寺 - 山鹿市蒲生 / 24. 実西寺 - 鹿本町御宇田 / 25. 中正寺 - 鹿本町御宇田
26. 坂東寺 - 鹿本町来民 / 27. 円福寺 - 鹿本町高橋 / 28. 平原寺 - 鹿本町津袋 / 29. 光明寺 - 鹿本町庄
30. 玉泉寺 - 菊鹿町下内田 / 31. 長谷寺 - 菊鹿町長 / 32. 尋居寺 - 菊鹿町長 / 33. 相良寺（相良観音）- 菊鹿町相良